自分のまちが
好きだから、
自分にできる
ことをする。

青森消防団

AOMORI
SHOBODAN

青森消防団

AOMORI SHOBODAN

消防団の団員は
みんな、普通に暮らす
普通の人。
そして、自分のまちが
好きな人。

消防団は地域に
「住む人」「働く人」「学ぶ人」
によって構成されています。
団員はそれぞれ
自分の仕事を持ちながら、
「自分たちのまちは、
自分たちで守る」の精神のもと、
住民の安全を守るため、
自分たちにできることを
日々積み重ねています。

What is 消防団？

紹介動画はこちら

知事メッセージ

地域のために、できること。

青森県知事
三村 申吾

消防団と言えば、火災現場での消火活動のイメージが強く、自分とはかけ離れた存在と思われているかもしれません。

しかし、今回お話を伺った消防団員の皆さんは、学生やサラリーマン、自営業など職業や立場も様々。そして、それぞれが、無理なく、充実感をもって地域のためにできることに取り組んでいます。

皆さんも、まずは消防団に参加してみませんか。「地域のために、できること。」地域とつながるその思いを実現する第一歩となることでしょう。

CONTENTS

消防団員インタビュー ―― P03-14
消防団の活動について ―― P15-16
待遇・各種制度 ―― P17-18
入団について ―― P19
各市町村問合せ先 ―― P20
救命・防火知識 ―― P21-22

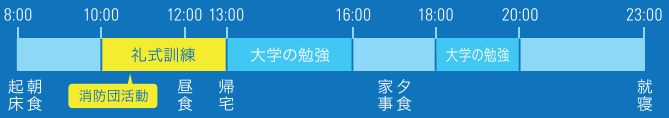
青森消防団
AOMORI SHOBODAN

AOMORI CITY

坪田（つぼた） 京花（きょうか）

青森市青森消防団 青桜分団所属
20歳／大学生／活動歴１年

消防団で活動したある一日



「将来の目標は消防士。団の活動は全て勉強になります。」

入団のきっかけは？学生生活との両立は、きつくないですか？

坪田　高校卒業後の進路を考えたとき、医療の仕事と、消防や警察など公安職の両方に興味がありました。どちらもできる仕事はないかと調べて、救急救命士という資格があることを知り、短大の救急救命学科に入学しました。指導教授が消防関係の人で、「消防士を目指すならやっておいたほうがいい」と勧められて入団しました。私のほかにも、多くの学科生がそれぞれの地元で消防団に参加しています。

短大では、実際の災害や救急の現場で必要な知識や技術を学び、消防団では、防災教育や広報活動の研修を受け、礼式も身につけることができます。短大で学んだことの範囲を越えて、消防の役割を広く経験できるのは楽しいです。

また、将来、救急救命士としてさまざまな人に対応していくことになると思いますが、防災教育やパトロール活動の場で、小さな子供からお年寄りまでさまざまな年代の人に接していることは、必要なコミュニケーション力を高めるためのよい訓練になっています。

女性だけの分団ですが、どんな雰囲気ですか？活動の頻度は？

坪田　職業はいろいろ、お子さんがいる女性も多くいらっしゃいます。LINEグループがあって、「今度こういうイベントがあるけど、行ける人は投票して」といったお知らせが来るので、みなさん、自分のペースで活動されています。

研修会では、先輩方の体験を通したお話を聞くことができます。現場での女性目線からの配慮の大切さなど、とても勉強になります。

入団したことで、防災や、目標である消防の仕事について意識の変化はありましたか？

坪田　広報活動のための研修を通して、日頃から家族でいざというときの集合場所を決めておくことや、防災グッズを常備しておくことの重要さを知り、自分自身実践しています。

また、救急救命士の資格を取得したうえで、将来は、消防士として消火活動もできるようになりたいと思うようになりました。

青森消防団
AOMORI SHOBODAN

HIROSAKI CITY

尾崎（おざき） 佑（ゆう）

弘前市消防団 第2方面団
千年地区団 第5分団所属
33歳／公務員／活動歴3年

消防団で活動したある一日

6:00	8:30	12:00	18:00	19:00	21:00	22:00
起床	朝食	出勤	昼食	帰宅	夕食	入浴	就寝

仕事　仕事　パトロール（消防団活動）

「消防団の活動について、市民にもっと知ってほしいと思います。」

入団のきっかけは？市の防災課の仕事と関係はありますか？

尾﨑　父が長年消防団員だったので、「そろそろお前もやるだろう」という感じで地区の人に勧誘されたのがきっかけです。父を見ていたので、不安や抵抗は特にありませんでした。

入団時は全く別の部署にいたのですが、その後、たまたま防災課に異動になりました。直接の消防団の担当ではありませんが、関連することもあります。9 月に市が行う防災訓練には消防団も参加しますが、団の活動がどんなものか、市民に伝えるよい機会となっています。

日常の主な活動内容は？火災現場ではどんなことをするのですか？

尾﨑　夜のパトロールがメインです。月2 回、車で地区内を巡回しています。火災現場では、ホースを伸ばすなど消防士の補助をします。最初はいちばん後ろにいて、車両の誘導と野次馬を整理するくらいでしたが、火事一件でこんなに人が来るんだと驚きました。整理も重要な役割だと感じましたね。

分団はどんな雰囲気ですか？また、今後の活動について抱負をお聞かせください。

尾﨑　危険を伴う作業なので、現場では命令系統がしっかりしていますが、ふだんは和気藹々とした組織です。みなさん、自分のできる範囲で参加されています。災害のニュースなどで大変な場面ばかり目にするので、きつい、めんどくさいというイメージが先行しがちですが、あまり構えずに気軽に参加してほしいと、団員としても、防災課職員としても思っています。

私は、半鐘が鳴ると駆け出す父の姿を見て育ちました。農家で時間もあったので、私よりずっと多く、いろいろな活動に参加していました。さくらまつりのとき、お堀の水を放水する観閲式に私を連れていき、誇らしげだった父の姿を記憶しています。

私も入団から3年経ちましたので、どんな役割を与えられても、きちんとこなせる団員になりたいと思います。いつか機会があれば、自分がお堀で放水する姿を父に見せてみたいですね。

青森消防団
AOMORI SHOBODAN

TOWADA CITY

小向（こむかい） 美薫（みく）

十和田市消防団 本部所属
24歳／会社員／活動歴1年

消防団で活動したある一日

7:00	9:00	11:00	12:00	18:00	23:00
起床	朝食	準備	消防団活動	礼式訓練	昼食	仕事	帰宅	夕食	入浴	就寝

「私にできることから、地域に貢献していきたいです。」

**入団の動機は？
消防団のイメージは
入る前と変わりましたか。**

小向　高校の観光科で十和田市の魅力について学んだので、その知識を活かして何か地元の役に立ちたいと思っていました。知り合いから消防団について聞く機会があり、魅力を外に発信するだけでなく、ここに暮らす人との交流を通した貢献の形もあると考え入団しました。

消防団は基本的に力仕事で、女性はいないと思っていたので、実際は大勢いてびっくりしました。先輩方から、お年寄りのお宅にうかがう防災パトロールや保育園での消火訓練、人命救助の訓練など、女性の役割がたくさんあると教えていただきました。コロナ禍で実際にはまだできていないのですが、早くやってみたいです。

**入団して良かったことは？
自分や周囲に
変化はありましたか？**

小向　車のディーラーでお客様と接していますが、消防団の話をすると、「地元のためにがんばってるね」といった言葉をいただいたり、また、緊急時の車からの脱出法を説明することもあるのですが、「消防団の人の話は説得力がある」と、きちんと聞いてくださいます。

私自身は、ふだんからショッピングセンターなどでAED の設置場所を確認するようになりました。そして、いざというときは自分が率先して動こうという勇気というか自覚が、団に入ってからできた気がします。

**本部ということで
女性も多いですが、
団の雰囲気は？**

小向　みなさんやさしく接してくれてアットホームな雰囲気ですが、会議では、これまでの活動の課題を話し合ったり、コロナ禍でもできることのアイデアを出し合ったりと非常に熱心で、十和田に対する強い思いがあって入団した人が多いんだなと感じます。

私のように何も知らないで入ってきても、こういう会議があるし、先輩が丁寧に教えてくれるので、何をしていいかわからないということはないと思います。「これなら私にもできる」ということが必ずあります。

青森消防団
AOMORI SHOBODAN

TSURUTA TOWN

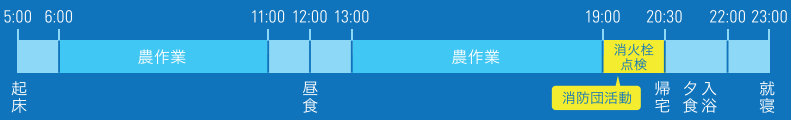
田澤 大輔（たざわ だいすけ）

鶴田町消防団 野木分団所属
37歳／農業従事者／活動歴 11年

浅利 純一（あさり じゅんいち）

鶴田町消防団 野木分団所属
39歳／農業従事者／活動歴 15年

消防団で活動した浅利さんのある一日



「ふるさとを愛する仲間とともに、地域の防災に努めています。」

お二人とも、消防団とともに「鶴田町みどりの会」でも活動されています。

浅利　みどりの会は、若手農業者の親睦を深め、農業技術を高めることを目的に発足した会です。私たち二人ともリンゴ農家ですが、ここは農家が多いので、消防団と両方に入っている人が多いのです。私は高校卒業後、4年ほど県外で働いた後に農業を継ぎましたが、みどりの会の先輩の勧めもあり消防団に入りました。

田澤　私は町外で勤めていたのですが、町に戻ることになり、人とのつながりをつくりたいと考えていたところ、同級生が勧誘してくれたので消防団に入りました。団での人との交流の中で、みどりの会にも入ることになりました。

ふだんの活動内容を教えてください。火災現場も経験しましたか?

浅利　自分たちは機械係。毎月2回、担当地域内の消火栓を回り、実際水を出して点検します。

田澤　火災の際は、消防士の指示に従って現場の整理などを行います。一度、早く現場に着いたとき、実際に放水したこともあります。次の日、子供に自慢できました。

農業仲間とともに消防団活動をする良い点は?

浅利　いつも会っている、気心も知れた人たちなので、団結はしやすいですかね。

田澤　台風などのときは、自分の畑も気になりますが、団の招集があればそちらに向かいます。農業と消防団をほぼ同時にスタートした人が多いので、それが当たり前になっていて、それぞれの家族も理解しています。そういう同じ意識で活動しているのも良い点かもしれません。

浅利　みどりの会があることで、若い人に声をかければ、わりと順調に団員が確保できたという面もあると思います。ただ、就農する若い人の数も少なくなってきました。いろいろな年齢の縦のつながりがあり、同年代の横のつながりもあるのが消防団の良いところだと思いますので、縦の後継を途切れさせないようにしたいです。自分の子供も、もし農業をやるなら消防団は付きものというか、ぜひやってほしいですね。

青森消防団
AOMORI SHOBODAN

SAI VILLAGE

福田佳津子（ふくだ かつこ）

佐井村消防団 本団所属
41歳／小学校臨時講師／活動歴8年
（左／次女 佳寿海ちゃん）

消防団で活動したある一日

5:30	7:00	9:00	12:00	13:00	17:00	23:00
家事・育児		避難訓練		家事・育児	家事・育児・仕事の準備	
起床	朝食	消防団活動	昼食		夕食	就寝

「団での経験が、子育てにも仕事にも役立っています。」

お子さんを育てながら入団することに不安はありませんでしたか?

福田　子供がいたからこそ入団しました。東日本大震災のとき、夫と2歳の子供とともに、函館に向かう列車の中に朝まで閉じ込められました。そのとき、ものすごいパニックの中で私は何もできず、人の助けばかり待っていたのですが、家に帰ってから「もっと何かできたのではないか」と考えるようになりました。

震災のようなパニック時に一番困るのは、子供のミルク、おむつの不足です。こういう物が足りないと女性目線で言える人が必要ですし、助ける側にもそれを理解できる人が必要です。「私がいるだけで何かの役に立てるかもしれない」、そんな思いが強くなり入団を決めました。

お子さんたちは団で活動するお母さんをどう感じているのでしょう?

福田　私は、火災の現場にもなるべく出かけて、その後、必ず子供たちと話すようにしています。火を消すのがどんなに時間がかかるか、また、その後の当事者の家族の方の大変さなど、私が感じたことを話して聞かせます。そうすると、子供たちも何か感じてくれるようで、火の怖さや、日頃から気をつけなければならないことなどを話し合うようになりました。

いちばん下のこの子も、お母さんが、家や仕事とは別の活動をしていることをなんとなく理解していて、「活動服を着たお母さんはかっこよかった」、「自分も避難訓練でアナウンスをしてみたい」と言ってくれます。

臨時講師のお仕事と団活動の両立は大変ではないですか?

福田　仕事が休みの日に活動しているので、特に無理はありません。私の担当は英語ですが、職場である小学校で避難訓練があった日には、英語を交えながら子供たちの感想を聞いたり、防災や命の大切さについて話し合う時間をつくりました。単なる避難訓練ではなく、それを通して、子供たちに自分にできることを考えさせる。そうした指導をしたいと考えていて、その面でも団での経験が役に立っています。

青森消防団
AOMORI SHOBODAN

TOWADA CITY

中野渡 格（なかのわたり かく）

十和田市消防団 中央分団所属
34歳／会社役員／活動歴9年
（左／株式会社 工組 代表取締役 中野渡 悟さん）

消防団で活動したある一日

6:00	7:00	12:00	13:00	17:30	20:00	23:30
起床	朝食	昼食	仕事	仕事	帰宅	就寝
	仕事		仕事	機器点検など（消防団活動）	自由時間	

「地域のつながりを守るために、消防団の役割は重要だと思います。」

消防団協力事業所となった経緯とお考えを教えてください。

中野渡社長　私はもともと、子供会や町内会など地域のコミュニティが年々崩れていることに危機感をもっていました。地域コミュニティが薄れると、いちばん問題になるのは防災面です。避難の呼びかけなどは町内会単位ですから。

　市からの要請があったこともあり、2012年に息子と社員2名を入団させましたが、この3人には、災害のときだけでなく、ふだんから地域コミュニティ活動の一環として消防団活動に取り組んでほしいと考えています。

入団して感じたことは？自分や地域の人に何か変化はありましたか？

中野渡　社長から話を聞き、すぐにやってみようと思いました。消防と建設業は関係が深いですし、地域活動への意欲もありましたので。

　入団して感じたのは、仕事と共通する部分が多いこと。団で取り扱う機材は特殊ですから、訓練していないと使えません。日頃から操法訓練と整備はしっかりやるようにしていますが、こうした意識は仕事でも活きていると思います。

　また、防災訓練などで住民に何か協力を要請するとき、消防の活動服を着て行くことで、すぐに信頼してもらえるようになりました。これは大きい変化ですね。

団員や協力事業所の拡大に向けて提案などはありますか？

中野渡　災害現場での動きについて、わかりやすい教育システムがあればいいと感じます。新しい機器も出てきますし、先輩から学ぶだけでは難しいこともあります。消防士は学校がありますが、消防団員も、座学で現場での心構えや消防士との役割分担を学び、実技で機器の操法を学ぶ、そういう機会があるといいですね。入団前に体験会的に実施するのもいいと思います。

中野渡社長　協力事業所については、社員を3人出すというのはなかなかむずかしくなっていると思います。優遇加点措置も、1人なら何点、2人なら何点と柔軟にすれば、協力できる事業所はもっと増えるのではないでしょうか。